

日本ソーシャル・イノベーション学会誌
「ソーシャル・イノベーション研究 (The Japan Social Innovation Review)」 投稿規定

(1) 投稿資格

日本ソーシャル・イノベーション学会の正会員もしくは学生会員であり、かつ入会から投稿年度までの年会費を完納していること。複数著者の場合、第一筆者（代表者）がこの条件を満たしていること。なお編集委員会からの依頼原稿や編集委員会が認めた場合はこの限りではない。

(2) 原稿内容

ソーシャル・イノベーションに関する未発表の論文・研究ノート・書評・その他とする。定期刊行物（学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など）や単行本として既刊、あるいは、これらに投稿中のものは本誌に投稿できない。ただし、学会発表抄録や科研費等の研究報告書はその限りではない。

(a) 論文：独創的な研究論文など。12,000～20,000 字程度（図表・注記・文献・要約を含む全文）。公開時でのページ数の上限を A4 サイズ 20 ページとする。

(b) 研究ノート：ソーシャル・イノベーションにとって重要な研究資料やデータのまとめなど。12,000～20,000 字程度（図表・注記・文献・要約を含む全文）。公開時のページ数の上限を A4 サイズ 20 ページとする。

(c) 実践活動報告：継続的な活動についてのレポート。6,000～10,000 字（図表・注記・文献・要約を含む全文）。公開時のページ数の上限を A4 サイズ 10 ページとする。

(d) 書評：最近出版された日本語あるいは外国語の著書に対する書評。3,000 字程度（文献等を含む）。

(3) 投稿原稿の構成

(a) 第 1 ページには、日本語のタイトルと著者名、所属、英文のタイトルと著者名、所属、ならびに著者（代表者）の連絡先（住所および電子メールアドレス）、投稿原稿の種類のみを記す。

(b) 第 2 ページには、日本語のタイトル、日本語の要旨、日本語のキーワード、ならびに英文の要旨、英文のキーワードを記す。

(c) 第 3 ページ以降に、日本語のタイトル、原稿の種類に続き、原稿本文を書くこと（著者名は書かないこと）。

(d) 書評には、上記の第 2 ページは必要ない。

(4) 要旨とキーワード

日本語の要旨は 500 字以内、英文の要旨は 300 ワード以内、キーワードは、日本語、英文とも 3～5 語とする。

(5) 査読と掲載の可否

投稿された原稿は、編集委員会が依頼した査読者が匿名のもとに査読を行い、その結果をもとに編集委員会が掲載の可否を決定する。審査の結果、原稿の加筆・削除および一部分の書き直し、投稿区分の変更などを求めることがある。

(6) 刊行

年 1 回以上、電子ジャーナルとしてオンライン上で刊行する。刊行時期は別途、本学会の事業計画にて示す。

(7) 著作権

「ソーシャル・イノベーション研究」に掲載されたすべての論文の著作権は、日本ソーシャル・イノベーション学会に帰属する。

(8) 著者の責任

投稿論文は研究者倫理に抵触してはならない。投稿者は、論文の内容および研究手続き、公表の仕方において、人権の尊重と福祉に十分配慮しなければならない。なお、掲載原稿の内容・表現および図表・写真等の掲載は、すべて著者が責を負うものとする。

(9) 投稿時期

投稿は随時受け付ける。なお当該号への掲載にあたっては、発行予定日の2ヶ月前までに編集委員会における査読および審査を経て採用決定になっていることが必要である。

(10) 原稿は「原稿作成要領」にそって作成し、投稿にあたっては原稿データならびに図表等のデータを編集委員会あてメールに添付し送信する。(メールアドレス jsir@jassi.jp)
なお送信後、編集委員会からの投稿受領連絡を確認すること。

(11) その他、必要事項は編集委員会において決定する。

(12) 本規定の改定は編集委員会が立案し、理事会における出席者の3分の2以上の同意をもって決定する。

執筆要領

(1) 言語

表題及び本文の使用言語は、日本語または英語とする。

(2) 書式

(a) 原稿は、編集委員会が提供する Microsoft Word 形式によるテンプレートに入力すること。バージョンは問わない。

(b) 書式設定は A4、縦置き、横書きとする。上・下・左・右の余白設定は各 3cm。1 ページ 1,120 字 (32 字×35 行) とする。

(c) フォントサイズは、10.5 とする。日本語：MS 明朝、英数字：Times、句読点：、(【全】句点)。(【全】読点)

(3) 見出し

(a) 見出しは最大で、節見出し、大見出し、中見出し、小見出しの4レベルを使うことができる。いずれも太字(ボールド)を用いる。

(b) 節見出しは前後1行ずつあけ、1字下げて書き、全体を四角で囲む。本文は1行あけた後に書き始める。

(c) 節見出しは前後1行ずつあけ、1字下げて書き、全体を四角で囲む。本文は1行あけた後に書き始める。

(d) 大見出しは、前後1行ずつあけ、左寄せで書く。節ごとに通しの番号をアラビア数字でつけてもよい。本文は1行あけたあとに書き始める。

(e) 中見出しは、前だけ1行あけ、左寄せで書く。通し番号を()内に入れたアラビア数字を用いてつけてもよい。本文は改行して書き始める。

(f) 小見出しは、段落の最初に1字下げて書く。本文は、2文字あけて同じ行で続け、改行はしない。

(4) 注記と付記

(a) 注記の数は最小限にとどめる。

(b) 注記を使用する場合は、該当箇所の右肩に上付きの小文字で、“1)”，“2)”のような通し番号をつけ、その内容を1つずつ改行しながら別紙にまとめて書く。

(5) 年号表記

本文中では原則として西暦を用いること。(行政機関等の事業、計画や会議名で元号が用いられている場合は当該の名称として扱う。)

(6) 謝辞

謝辞は掲載決定後に記すこと。

(7) その他

(a) 原稿に含まれる図表や写真等で引用のために転載等の許可を必要とする際には、著者の責任と負

担で論文掲載までに許可をとり、その旨を論文に記載する。

(b) 研究結果の一例として研究参加者・協力者の実名、写真や映像を論文に掲載する場合は、肖像権やプライバシーに十分配慮する。

(8) 著者校正

掲載決定後、著者校正はインターネットを通じたデータ送受信にて行い、原則として1回のみとする。

図表の作り方・文献引用の仕方

(1) 図の番号とタイトル

(a) 図には、図1、図2といった通しの図番号をつけ、図のタイトルとともに、図の下中央につける。

(b) 図タイトルは図番号に続けて1文字分の余白の後に記入する。タイトルは本文を読まなくても図が理解できる程度の、最低限の必要事項を盛り込む。必要な場合には、図の注をタイトルに続けて書く。

(2) 写真

(a) 写真は図扱いとする。

(b) 掲載決定に至った後、投稿者は画像データを論文本体とは別に提出する。

(3) 表の番号とタイトル

(a) 表には、表1、表2といった通しの表番号をつけ、表のタイトルとともに、表の上左詰めで記入する。

(b) 表タイトルは、表番号に続けて1文字分の余白のあとに記入する。

(5) 文献の引用方法

(a) リストは日本語文献、外国語文献、URL等の3カテゴリーの順に分け、日本語の場合は著者姓の50音順に、外国語の場合は著者姓(ラストネーム)のアルファベット順に並べる。URLは本文での引用順に並べる。

【日本語文献】

論文の場合

著者名(出版年)「論文題名」『雑誌名』巻数(号数)、開始頁-終了頁。

(1) 共著の場合は、著者名をナカグロ(・)でつなぐ。

(2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット(a,b,c順)を付けて区別する。

(3) 題名に副題がある場合は、主題と副題を全角マイナス(-)でつなぐ。

(4) 巻数と号数が両方ある場合は号数のみ()に入れて示す。どちらか一方の場合は数字のみ示す。

(以下の例を参照)

(5) 開始頁と終了頁に重複する位の数字があるときは、その記載を省略すること。(例えば、843ページから865ページの場合は843-65のように示す。)

【例】

玄田有史・神林龍・篠崎武久(2001)「成果主義と能力開発—結果としての労働意欲」『組織科学』34(3)、18-31。

永瀬伸子・長町理恵子(2002)「教育コストの変化と家計構造」『社会科学研究』53(5)、179-93。

単行本の場合

著者名(出版年)『書籍名』出版社名。

【例】

今野浩一郎・佐藤博樹(2002)『人事管理入門』日本経済新聞社。

佐野勝男・楨田仁・関本昌秀(1987)『新・管理能力の発見と評価』金子書房。

編著書の場合

編者名（編）（出版年）『書籍名』 出版社名。

【例】

猪口孝・田中明彦・恒川恵市・薬師寺泰蔵・山内昌之（編）（2005）『国際政治事典』弘文堂。

【外国語文献】

雑誌論文の場合

著者名（ラストネーム，ファーストネームイニシャル，ミドルネームイニシャル，[ある場合]の順）
（出版年）論文題名，雑誌名（イタリック），巻数（号数），開始頁 - 終了頁。

(1) 共著の場合は、著者名を and でつなぐ。3 名以上の共著の場合には、最終の著者名のみ and でつなぐ、その他はカンマ（，）でつなぐ（以下の例を参照）。

(2) 同一著者による同一出版年の文献が複数ある場合には、出版年の後に小文字のアルファベット（a,b,c 順）を付けて区別する。

(3) 論文題名の各単語の最初の文字は大文字にする。本題および副題の文頭にこない接続詞や前置詞（例えば、and, by, for, from, in, of, to, under, with）、および冠詞（a, an, the）は小文字にする。

【例】

Arthur, M. B. (1994) The Boundaryless Career: A New Perspective for Organizational Inquiry. *Journal of Organizational Behavior*, 15 (4), 295-306.

Behson, S. J. (2002a) Coping with Family-to-Work Conflict: The Role of Informal Work Accommodations to Family. *Journal of Occupational Health Psychology*, 7(4), 324-41.

単行本の場合

著者名（出版年）書籍名（イタリック），出版社名。

【例】

<原書の場合>

Becker, H. S. (1963) *Outsiders*, Free Press.

<訳書がある場合>

- ・以下の例のように記し、外国語文献に含めること。
- ・訳書の出版年は以下の例のようにイコールを付けて示すこと。

【例】

Hochschild, A. R. (1983) *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*,

University of California Press. (=2000、石川准・室伏亜希訳『管理される心ー感情が商品になるとき』世界思想社。

【URL など】

本文での引用順に並べる。

(1) URL のリストでは、以下のように各 URL の始めに 1. 2. 3. …の番号をうち、一括して通し番号で記載すること。

【例】

1. 厚生労働省（2013）「平成 25 年 10 月 29 日付第 93 回労働政策審議会職業安定分科会雇用保険部会資料 資料 No.3 育児休業給付について」厚生労働省ホームページ（2016 年 1 月 14 日取得、<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000027874.html>）。

2019 年 6 月 21 日制定

2019 年 11 月 30 日改訂

（査読規定制定に伴う文言調整）

「ソーシャル・イノベーション研究」編集委員会